

# 運動遊び指導をめぐる性役割期待と男性保育者の指導における葛藤

紺谷遼太郎（岡山大学）

## I. 目的

保育職に従事する男性は少数派であり、男性保育者は周囲から男性であるがゆえに「ダイナミックな遊び」「運動遊び」等の指導という保育のなかでも特定の役割期待がなされる（本多ら，2007；井上・石川，2008）。そこで本研究では、遊び指導における性役割期待と男性保育者の指導をめぐる葛藤との関連を明らかにすることを目的とした。

## II. 方法

- ① 保育者がもつ保育内容についての性役割期待意識，特に遊び指導についての性役割期待意識の現状を把握するため，保育者を対象に遊び指導をめぐる性役割期待意識について 149 名の保育者から有効な回答を得た質問紙調査を行った。
- ② 男性保育者が遊び指導をめぐる自らの役割についてどのように認識し，その役割をどのように意味づけて職務を行っているかを明らかにするため，男性保育者 5 名を対象に，半構造化インタビューによる聞き取り調査を実施した。

## III. 結果と考察

### 1. 遊び指導をめぐる保育者の性役割期待

男性保育者との職務経験のある保育者ほど，女児のケア業務についてのジェンダー意識の偏りが少なくなる傾向が見られた一方で，保育業務へのジェンダー意識をもつ保育者ほど，男性保育者に男性の身体的特性を強調するような特定の遊び指導を期待することが明らかになった。かつて保育職が女性性というジェンダーを基準にしてカテゴリー化されている職業とされてきたこと（中田，2004）を考慮すれば，現在そのジェンダー意識は，特定の業務や遊び指導に限定されていることが本調査によっても窺えた。

### 2. 遊び指導において男性保育者がもつ役割意識

男性保育者は，周りの女性保育者と比較したり周囲の男性ならではの遊び指導の役割期待を受け入れたりすることで，男性性を可視化する戦略（矢原，2007）を取ろうとすることが示唆された。男性保育者は，保育にジェンダー規範を持ち込むことに違和感を抱えながらも，それでも保育にジェンダーを持ち込み，自身の保育に求められている男性性を，保育者の属性や保育における父性母性的側面に読み替えて，自らの役割を再定義する。そうして，効率良く保育を行うためや子どものために，周囲から期待される身体を活かしたダイナミックな遊びの指導を自らの保育活動の中心に置く。このような，差異化を図るためにその役割に甘んじることに葛藤しながらも，その役割を担っていく戦略を取っている様子が窺えた。そして，そうした葛藤が解消されるのは，立場が変化し，それに伴い周囲から期待される役割が変化するときであることが示唆された。

## IV. 結論

男性保育者が周囲から男性であるがゆえの身体性を用いた遊び指導を期待されるように，保育において男性性をポジティブに捉える側面が存在することが明らかになった。このような現状のなかで，男性保育者は，専門性に規定された解釈枠組みを用いながら自らの保育者役割を定義しようとしても，周囲の保育者と比較や，周囲からの男性性を強調した遊び指導への期待によって，性役割意識を持たざるを得なくなっている。そして，男性であることに関連付けて運動遊び指導を自らの保育の中心に置くことをめぐり，葛藤が見られた。こうした現状に対して，立場が変容することでジェンダーを帯びた役割を乗り越えていく可能性が見て取れた。